

はじめに

本書の目的は、介護サービス組織における連携が経営に与える影響を検証することである。特に組織が生み出す成果である組織の有効性の概念に基づいて、介護職の「職務満足」や「身体的・精神的ストレス」、「職場継続意思」、また介護サービス組織の介護サービスの質を改善する取り組みである「ケアの質の管理」や、資源の投入と便益の出力の比率である「効率性」の5つの有効性に着目する。そして、連携がそれらの有効性にどのような影響を与えるか明らかにする。さらに、組織内の仕組みである組織構造が連携や有効性にどのような影響を与えるのか、また組織連携と有効性の関係に対して組織構造が与える影響（組織構造の調整効果）を検証する。

介護分野における介護費用の増大や介護事故・高齢者虐待および介護職の離職等の問題解消の策として、介護サービス組織における連携が期待されているが、これまで十分にその効果は実証されてこなかった。また施設介護が質的に変化し、訪問介護が量的に拡大する中で、施設と訪問介護の違いが組織連携やその効果にどのような影響を及ぼすかも確かめられていない。本書は、経営学のアプローチを用いて、介護サービス組織の連携が経営に与える影響を組織の有効性と関連付けて議論し、さらに施設や訪問介護の組織構造の違いに注目する。そして、連携と有効性の関係性を明らかにし、組織の構造が連携や有効性に与える影響や、また連携と有効性の関係に対する組織構造の調整効果を経営学の視点から解明することを目的としている。

本書の学術的な特色として、以下の3点を指摘することができる。第1に、これまでの経営学や医療・介護・福祉分野の研究の知見に基づいて、組織内や組織間で起こる個人、集団、組織レベルの連携を統合し、下位概念からなる広義の概念として組織連携を定義している点である。第2に、介護サービス組織の連携が経営に与える影響を経営学における組織の有効性の概念から捉えることによって、組織は様々なステークホルダーの要望や関心から構成される目標を達成すると考えるアプローチから、連携と有効性の関係を明らかにしようと試みる点である。第3に、施設や訪問介護の提供サービスの違いを経営学の組織構造の概念と結び付けることで、今後、要介護度の高い利用者への対応が求められる施設介護と、拡大が予測される訪問介護の組織における構造の違いが連携や有効性に与える影響や、また連携と有効性の関係に対する組織構造の調整効果を探索している点である。

本書の学術的および実践的な意義として、以下の2点を挙げるることができる。第1に、介護サービス組織における連携と組織の有効性、組織構造の3つの概念間の関係性を経営学的アプローチによって解明し実証研究に貢献するという点で学術的な意義がある。介護サービス組織における組織内外の連携が有効性におよぼす効果、施設や訪問介護の組織構造や連携、有効性の関係性など、これまで未解明であった組織研究の課題を探る実証研究の一步となると考えられる。第2に、持続可能な介護サービス組織のマネジメントツールとしての組織連携のあり方を施設と訪問介護別に提案できる点である。今後、特に団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けて、施設介護ではより重度の要介護者の受入の拡充が、また訪

問介護では利用者数や事業者数の拡大が見込まれる中で、効率的で質の高い持続可能な介護サービスの提供に向けて、どのような組織連携が有効かを施設と訪問介護ごとに提示できると考えられる。

次に、本書が検証する研究課題として、まず介護サービス組織における連携が組織の有効性、特に介護職の職務満足や身体的・精神的ストレス、職場継続意思および介護サービス組織のケアの質の管理や効率性に与える影響を検証する（研究課題 1）。また、組織内の個人や集団が行う連携である組織内連携、および個人や集団、組織が組織の境界を越えて行う連携である組織間連携が、競合価値フレームワーク（CVF）で分類されるミクロレベルの組織における個人の幸福や成長を重視する内部志向と、マクロレベルの組織自身の安定や繁栄を重視する外部志向のそれぞれの有効性にどのような影響を与えるかも検証する（研究課題 2・3）。そして、施設と訪問介護の組織構造が連携や有効性に与える影響や、連携と有効性の関係に対する組織構造の調整効果を検証する（研究課題 4・5）。

研究課題 1：介護サービス組織における連携は組織の有効性を高めるのか

研究課題 2：介護職や介護サービス組織の組織内連携は組織間連携よりも内部志向の有効性を高めるか

研究課題 3：介護職や介護サービス組織の組織間連携は組織内連携よりも外部志向の有効性を高めるのか

研究課題 4：介護サービス組織における施設と訪問介護の組織構造の違いは連携および有効性にどのような影響を与えるのか

研究課題 5：介護サービス組織における施設と訪問介護の組織構造の違いは連携と有効性の関係を調整するのか

以上の研究課題の検証を行うにあたり、本書は以下の順に議論を進めていく。第 1 章では、問題意識として、介護分野で起きている介護費用の増大の問題や介護事故や高齢者虐待の問題、介護職の離職やストレスの問題を取り上げる。そして、それらの問題の解決に寄与する介護サービス組織における連携に注目し、それらの連携が介護職の職務満足や身体的・精神的ストレス、職場継続意思および介護サービス組織のケアの質の管理や効率性に与える効果や、施設や訪問介護の組織構造が連携や有効性に対して与える影響や、連携と有効性の関係に対する組織構造の調整効果を検証する必要性を論じる。第 2 章では、経営学や医療・介護・福祉分野の研究および介護サービス組織における連携に関する先行研究をレビューする。第 3 章では、組織連携の効果と弊害、および本書で取り上げる介護職の職務満足や身体的・精神的ストレス、職場継続意思、介護サービス組織のケアの質の管理や効率性および組織の有効性に関する先行研究を概観する。第 4 章では、介護サービス組織の組織構造に関する先行研究を経営学や医療・介護・福祉分野の研究を基に確認する。第 5 章では、それらの先行研究レビューから浮かび上がった限界点と研究課題を説明し、本書が依拠する理

論と検証を行う仮説を提示する。第6章では、各分析で用いるデータ、変数および分析方法について述べる。続く第7章では、介護職の連携が職務満足や身体的・精神的ストレス、職場継続意思に与える影響の検証、第8章では、介護サービス組織の連携がケアの質の管理に与える影響の検証、第9章では介護サービス組織の連携が効率性に与える影響の検証それぞれ行う。終章では、検証結果を要約し、それらの理論的および実践的インプリケーションを提示する。最後に、本書の限界と今後の課題について述べる。